16

医科との連携による適切な歯科診療環境の整備

ー歯科の医療体制整備に関する研究～HIV感染者の歯科治療の一般化を目指して～ー

研究分担者　宇佐美 雄司
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター歯科口腔外科 医長

研究要旨

HIV感染者に求められる歯科治療を円滑に提供できる環境の構築を目指して、「歯科の医療体制整備に関する研究」班は活動してきた。従来の具体的方策はブロック拠点病院等の歯科関係者らと協力し、各地で協議会や講習会を行うことであった。しかし、これらの計画は新型コロナウイルス感染拡大により、多くが中止となった。ただ、幸い、一部のブロックではオンラインによる講習会を実施することにより、活動の継続性は保たれた。また、2019年度に作成した「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」を配布により啓発活動を促進する予定であったが、やはり、コロナ禍の影響により配布そのものが限定的に留まった。
毎年実施している歯科関係の活動報告会もオンライン開催となった。ただし、その効用として遠方からの新しい参加者も増え、今後の啓発活動を広げる手段としての可能性を見出すことができた。

A. 研究目的

HIV感染者が普通に歯科医院を受診できるような医療環境の成熟が「歯科の医療体制整備に関する研究」の最終的目的と考えている。しかしながら、現在のところは現実的対応として、過度的あるいはセーフティネットとして拠点病院等と診療連携し、HIV感染者の受入れに対応する歯科医院の確保を目指してきた。

B. 研究方法

1. 講習会等による歯科医療従事者の啓発活動

HIV感染者の受入れを阻害する要因である誤解や偏見を払拭するために、毎年、ブロック拠点病院の歯科関係者（研究協力者）により講習会形式の啓発活動を計画している。

2. ブロックごとのHIV歯科医療連絡協議会の実施

拠点病院等とHIV感染者の受入れに対応している歯科医院とが連携するための歯科医療ネットワークを整備してきた。それにもかかわらず、今でも都道府県により温度差が少なくないため、全国均てん化が必要である。そこで、主にブロック単位でHIV歯科医療連絡協議会を企画し、都道府県歯科医師会と協議しネットワークの構築等を要請する。なお、受入れが進んでいない地域が多いブロックでは、行政の関係者にも協議会に出席してもらい認識の共有をはかる。

3. 歯科衛生士の啓発ツールの配布

1）「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」の配布
歯科衛生士啓発ためのツールとして昨年度末に「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」作成した（図1）。この読本を数冊ずつサンプルとして歯科衛生士養成施設（いわゆる歯科衛生士学校等）、都道府県歯科医師会、および（公社）日本歯科衛生士会に送付した。閲覧後に要望により追加発送し啓発に繋げることを目論んだ。

2）歯科衛生士養成施設での利用を促すために、「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」内容に関してのアンケートを企画し実施する。

歯科衛生士もしくは歯科衛生士養成施設の学生を対象に作成
A5版　15頁
2019年3月に発行

図1　歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本

4. HIV感染者の歯科治療受入れ体制に関する全国調査

2018年度から実施している都道府県歯科医師会を対象にしたHIV感染者の歯科医療体制整備の状況について、2020年度も調査を行う。

（倫理面への配慮）

本研究においては、アンケート調査を含め個人情報に関わるものは無く、倫理面での問題はない。

C. 研究結果

1. 講習会等による歯科医療従事者の啓発活動

全国で講演会、研修会等はブロック拠点病院の歯科部門と地域の歯科医師会が協働で毎年開催されてきた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの予定の講習会、研修会等は中止を余儀なくされた。特に新型コロナウイルス感染者が多い地域では難しかったようである。幸い5つのブロックにおいてはWEB会議を実施することができた（表1）。なお、中国・四国ブロックの会合はハイブリッド式で実施された。

2. ブロックごとのHIV歯科医療連絡協議会の実施

やはり、新型コロナウイルスの感染拡大により、関係者が集まり協議することは困難と判断し、全て中止とした。

表1　2020年度の講習会および研修会等（都道府県単位以上のものを掲載）

ブロック	講習会・研修会	開催日	場所（様式）
北海道	第16回北海道HIV/AIDS歯科医療研究会	2021年2月20日	WEB配信
東北	令和3年度東北HIV/AIDS歯科診療拠点病院等連絡協議会	2021年1月16日	WEB配信
関東甲信越	2020年度北関東甲信越ブロックHIV感染者の歯科医療情報交換会	2020年9月27日	WEB配信
北陸	令和2年度北陸地区HIV歯科診療情報交換会・研修会	2021年2月14日	WEB配信
中国四国	第11回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議	2020年11月8日	岡山オルガホール＋WEB配信
	第11回広島県歯科医師会の会員・準会員のためのHIV感染症に関する講習会	2020年12月13日	グリーンヒル尾道

3. 歯科衛生士の啓発ツールの配布等

1）「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」の配布
現在のところ、追加発送の依頼は13の関係者もしくは団体に留まっている。残念ながら歯科衛生士養成施設からは反応が乏しかった。しかしながら、神奈川県歯科医師会からは会員に配布し、その歯科医院に勤務している歯科衛生士の啓発に使用したいとの打診を受けた。また、（公社）日本歯科衛生士会においては引き続き配布を要請中である。

2）「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」評価の調査
全国の歯科衛生士養成施設165校に対し、内容の理解についてアンケートを行った。アンケート用紙は2020年6月に郵送したが、回答は49校から返送があった。アンケートの回答者は各施設に任せているが、多くが歯科衛生士の教職であった。当然ながら、全ての施設において何らかの授業において感染対策についてなされていたが、HIV感染症について明確に授業の中で取り扱っているのは22施設（45%）に過ぎなかった（図2）。内容について、知っていたかどうかを尋ねた結果が図3である。「よく知っていた」を100、「全く知らなかった」を0とし、自己評価を数字で示してもらった。ARTについては様々の程度で知られていたが、U＝Uおよび90, 90, 90についての認識はほとんどなかったことが明らかになった。この読本についての感想の自由記載からは、歯科衛生士養成施設の学生には、啓発ツールとしては内容が幾分難しかったと判断された。

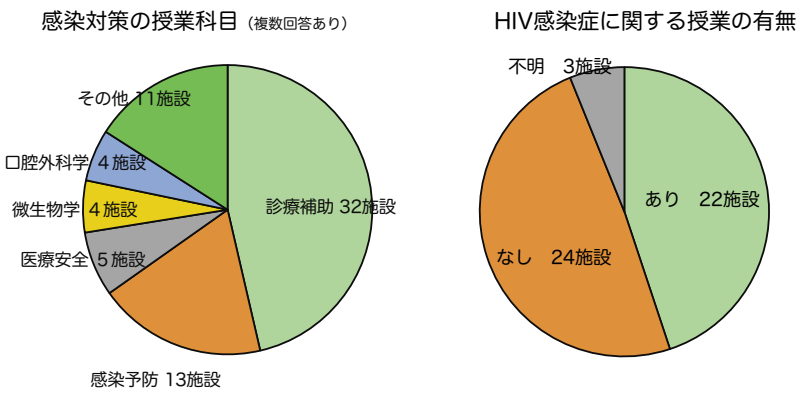

図2

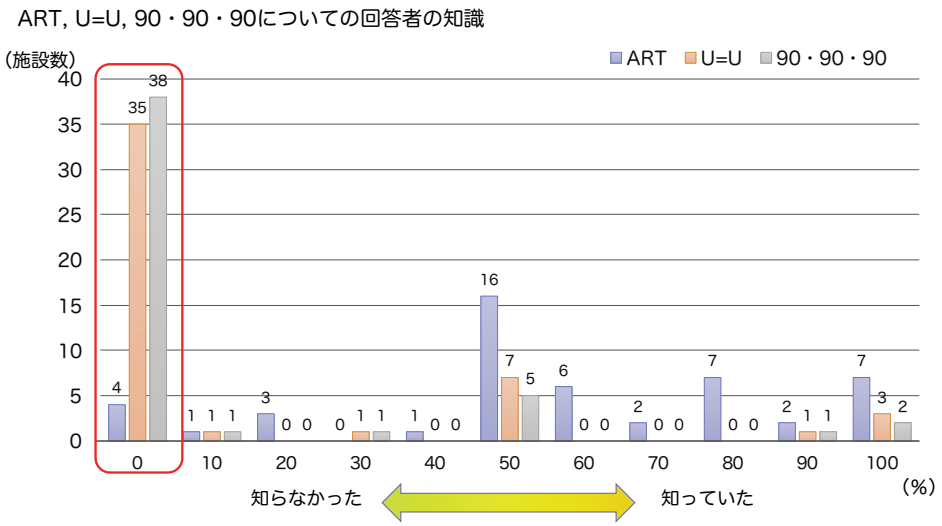

図3

4. HIV感染者の歯科治療受け入れに関する体制の全国調査

調査をして3年目となる今年度の結果は図4のごとくである。新型コロナウイルス感染拡大の中、進展はないと予想していたが、それにもかかわらず、新たに1つの県が歯科医療ネットワークを構築したとの回答であった。その結果、HIV感染者の歯科治療受入れに何らかの対応をしている都道府県は2019年度の30地域から31地域に増加していた。しかしながら、依然と「協議中」のままの府県が12あり、回答の上では全く進展のないと判断される4県が浮かび上がる結果となった。なお、この結果は、Webサイト「拠点病院案内」に歯科医療提供の情報として更新した。なお、研究班が目標としている、あらゆる歯科医院が受入れをしている地域は青色の表記だが、残念ながらまだ1つもない。

都道府県別 歯科診療ネットワークの状況

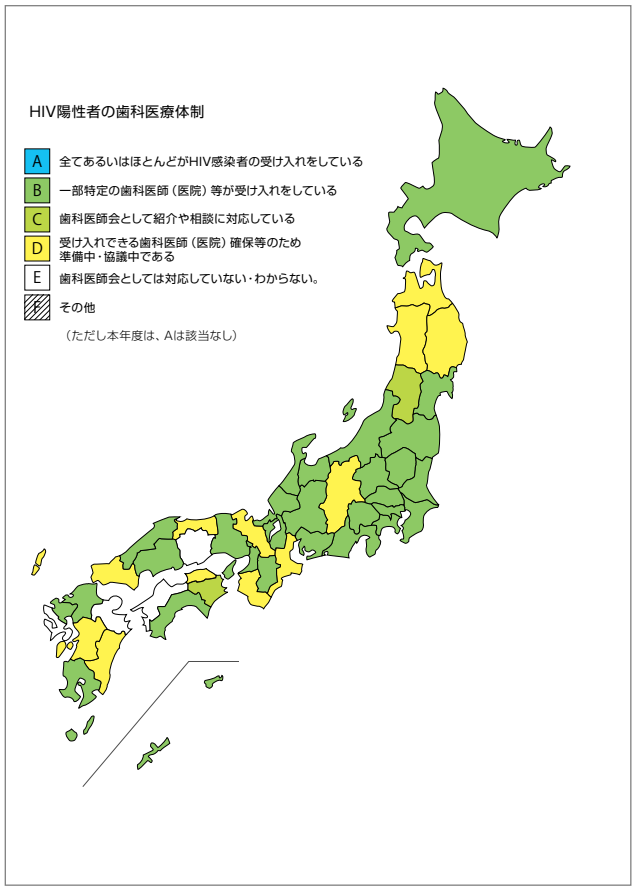

図4

D. 考察

新型コロナウイルス感染拡大のため、移動の自粛や密の回避から、対面で行う会議や研修会は全て中止となった。それゆえ、歯科医療ネットワークの構築が遅滞すると危惧した。しかしながら、2018年度および2019年度に「HIV陽性者のための歯科の診療案内」を発行してきたことや、その情報をWEBサイト「拠点病院診療案内」にアップしていることが、都道府県歯科医師会においては歯科の診療体制整備に取組む姿勢が継続的になったと期待を込めて考えたい。しかしながら、2020年度においても全く動きのないような地域に対しては、今後、ブロック拠点病院の歯科関係者などと協働し集中的に対策を練る必要があると考えている。

さて、一般歯科医院でのHIV感染者の受入れの障害として、よく耳にする意見として「スタッフの理解が得られない」というものがある。もちろん、歯科医院内におけるコミュニケーションとガバナンスに問題があることは否めない。しかし、最大の要因としては、スタッフ、特に歯科衛生士の啓発が養成過程において不足していたと推測している。そこで2019年度末に啓発ツールとして「歯科衛生士のためのHIV/AIDS読本」を作成したが、2020年度はその配布を通じて、啓発活動を目論んでいた。結局、歯科衛生士養成施設や関係団体も新型コロナウイルス感染対策に追われ、この計画は足踏みをしている状態である。ただし、アンケート結果から、この読本のみでは一般の歯科衛生士の啓発には、まだまだ難しいと思われた。今後はU=Uのスローガン等を平易に表現し、HIV感染症やAIDSに対する偏見、誤解を払拭していくことが得策であろう。

ところで、毎年度、歯科の医療体制整備に関する活動報告会を実施している。この報告会ではブロック拠点病院等の歯科関係者のみならず、HIV感染者の歯科医療に関わっている者と情報交換や活動の方向性を確認してきた。今年度は当然のごとくWEB開催となったが、それゆえ、従来は遠方などの理由により参加が困難な人たちの参加も促すことができた。この経験を生かすことにより、HIVに関する情報が届きにくい、届いていないと推測される地域へも発信していくことが可能となることを学ぶことができた。もちろん、実際の対面での会合は変わらず重要であることも再認識した。今後の啓発活動における手段、方法に選択肢が増えたと考え、HIV感染者の歯科治療の一般化のための活動に生かすことができるであろう。

E. 結論

コロナ禍のため、従来の協議会や研修会の開催はほぼ不可能となった1年であった。関係者などとはやはり対面による情報交換は必須であるが、啓発を全国津々浦々に伝えていくにはオンラインによる活動の有効性が示唆された。

今後は啓発ツールの内容、形式を再考し、歯科衛生士を含め啓発することによりHIV感染者の歯科医療の一般化に近づきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 原著論文・著書

なし

2. 口頭発表

1) 宇佐美雄司、松井 遥、松浦由佳、荒川美貴子、萩野浩子．ARTを受けているHIV感染者に発生した上顎悪性リンパ腫の1例．第74回 日本口腔科学会学術集会、2020年4月 新潟（WEB開催）
2) 宮田 勝、高木純一郎、釜本宗史、宇佐美雄司、坂下英明．エイズ北陸ブロック拠点病院におけるHIV診療体制整備の取り組みの現状と問題点―第3報―．第74回 日本口腔科学会学術集会、2020年4月 新潟（WEB開催）
3) 宇佐美雄司、松井 遥、松浦由佳、荒川美貴子、萩野浩子．エイズ診療拠点病院における歯科衛生士臨床実習による啓発効果．第74回国立病院総合医学会、2020年10月 新潟（WEB開催）
4) 中川裕美子、近藤順子、大多和由美、高木律男、岡 慎一、宇佐美雄司．歯科衛生士養成過程・臨地臨床実習におけるHIV感染症に関する教育についての研究．第34回日本エイズ学会、2019年11月、東京（WEB開催）
5) 宇佐美雄司、萩野浩子、太田和由美、中川裕美子、近藤順子、向 真紀、華房里衣、横幕能行．歯科衛生士啓発のための小冊子作成について 第34回日本エイズ学会、2019年11月、東京（WEB開催）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし